

20世紀前半中国山東省落花生の海外輸出

霍 榮

The Exporting of Peanuts from Shandong Province in the Early 20th Century

Huo Rong

Abstract

In China the peanut is regarded as a commercial crop, and is one of the most important oil crops. Peanut cultivation has a long history, beginning around five hundred years ago. Peanuts do not originate from China, and it is said that they were introduced from Japan in the Kangxi period during the Qing dynasty. At that time peanuts were only planted in Fujian and Guangdong province. After this initial period, a new breed of peanut plant was brought to China by British missionaries. Peanut plantations soon spread all over China, as they proved a fit for the sandy soil.

In the 1830s, peanut plantations in China increased, and the top province of production became Shandong province. Previous research on this topic has mostly focused on phytology and agriculture, neglecting almost entirely the commercial aspects. In this paper, the breed of peanut cultivated in Shandong province and the foreign export of these peanuts in the early part of the 20th century shall be discussed.

Keywords: 中国産落花生、落花生栽培、品種、落花生生産、海外輸出

一、はじめに

中国における落花生の栽培について、民国『常熟縣志』巻4「物産」には、

落花生、三月栽、引蔓不慎長、俗云花落地、而生子土中、故名。霜后煮熟食、其味才美。¹⁾

とある。落花生は旧暦の三月に播種され、茎短く花が凋んで落ちると、結実が土から生じる。霜降すなわち旧暦の九月中旬になると食ごろとなり、味が極めて美味しくなることから「落花生」と呼ばれてきた。

落花生は中国で経済作物として栽培され、主要な油料作物の一つでもあり、常に栽培面積が3,000万畝前後である。落花生仁（殻無）は38%-60%の脂肪量と24%-36%の蛋白質を含有し、豊富な栄養価値がある。

中国の農業大省である山東省は、代表的な落花生栽培地の一つである。山東省産の落花生の栽培面積は1,200万畝²⁾前後であり、全国落花生栽培面積の約4分1を占め、山東省産落花生の生産量も全国で常に上位、3位以内に位置している。このように、山東省の経済と油料農産物の中で落花生は主要な農産物として栽培されてきた。

落花生の具体的な用途は河北省の事例から知られる。河北省においても農産物の中で重要な地域を占め、民国『河北省景縣志』巻2、「物産品類 工藝作物類」によれば、

落花生、以花落子房入地一二寸、即結實成莢、故名實分。大小兩種、今邑人、統以長生果呼之。春下種秋末收穫、曬乾炒食甚美、並可榨油。小者較大者出油多、其渣滓名花生餅、能飼牲畜。³⁾

とある。落花生は春に種を撒き、秋に収穫され、食用や搾油として、多く利用されている。搾油後の落花生餅は家畜の飼料として使われる。このように、落花生は食用、搾油そして搾油後は家畜の飼料など多方面の用途があった。

山東省における落花生の栽培と生産量は、全国の第1位を占め、省内の各地方における品種も多様である。山東省の土地は砂質であり、落花生の栽培に適している。山東省内の栽培地の品種による落花生の生産量や海外への輸出量も多い。

そこで本論文は、山東省産の落花生の栽培の歴史と山東省産落花生の品種と生産地における

1) 吳相湘主編『常熟縣志』、臺灣學生書局出版、1965年11月、399頁。

2) 万書波等編著『山東花生六十年』、中国農業科学技術出版社、2009年10月、1頁。

3) 張汝漪編『景縣志』、成文出版社、1932年、289頁。

落花生の生産量、海外輸出量を明らかにしたい。

二、中国産落花生の栽培の歴史と生産量

1、中国産落花生の栽培の歴史

民国期の實業部國際貿易局編纂の『中國實業志』によれば、落花生が中国にもたらされたのは福建省と広東省の二省が最初とされ、山東省における落花生の栽培については次の記述から知られる。

花生原非中土所産、據史乘所載、清康熙年間、由僧應元得自日本、當時僅福建廣東有之。迨後歷經外國傳教師宣稱、我國砂土地帶、極適花生之種植。山東省之有花生、始於一百年前英國安穆哈司持卿之宣稱、安氏盛言花生宜於中國栽培、喚起一般人士之注意、於是山東、河北、河南等省、羣相試種、乃知成績之佳、利益之厚、不遜於其他產品。故其種植、增加甚速。嗣後美國傳教師將美國之大粒種相繼輸入、移植於山東一帶、品種優良、產量豐富、北方各省、栽培區域、日見推廣。歐美各國、先後在天津、青島、漢口、上海等處、設莊收買、於是花生乃成我國主要出口農產之一焉。⁴⁾

清代康熙年間に僧侶の應元が日本から落花生を中国にもたらし、福建省と広東省から栽培が始まった。その後イギリスの宣教師により、中国の砂質地帯が落花生の栽培に適しているとされ、福建省と広東省以外の全国に落花生の栽培が広がった。山東省では19世紀30年代から落花生の栽培が開始された。河北省、河南省などでも落花生の栽培が始まった。落花生の産量は他の農産品より多く、利益も豊富で、栽培面積は急速的に増加した。アメリカの宣教師はアメリカの品種を中国の山東省にもたらし、その品質と産量が極めてよかったため、中国の北方においても落花生の栽培が進展した。欧米各国は中国の天津、青島、漢口、上海などに落花生の買取地を設置し、落花生が中国の重要な海外への輸出農産物となったという。

以上に見られるように、中国の落花生は16世紀の始めから栽培され、特に発展したのは19世紀30年代に中国の山東省、河北省などで落花生の栽培が始まってからである。その後、中国全土に落花生の栽培が拡大していったのである。このように中国における落花生の生産地、生産量は土壌と深い関係があり、山東省などの砂質の土壌が多い土地が落花生の栽培に適していた。

2、中国全国落花生の生産地と生産量

中国産の落花生はもともと食用として栽培されていたが、工業用の油料子實としても利用さ

4) 實業部國際貿易局編纂『中國實業志』、實業部國際貿易局編纂、1937年1月、188頁。

れ、その生産量が著しく増大した。中国では落花生の主産地は、山東省や河北省そして江蘇省などであり、1914年の山東半島における日独戦争の終戦に伴い、1915年から社会秩序の回復とともに落花生の輸出額は年を逐って増加していた。

1942年の東亜研究所の資料調査には次のように見える。

1933年までは支那落花生の生産量及び栽培面積についての完全な統計がないので、その發展に就いて正確に知ることは出来ない。ただ輸出の増加によってその發展過程を間接的に推測するの外はない。支那落花生栽培の發達に於いて、頻發する政治的事件に因り、又落花生は他の雜穀に比し割高にあり、尚又落花生油は大豆油、棉實油との相場如何に依り左右されるが如き價格の安定性を缺いてみたこと因っても亦或る程度は確かにその發達を妨害される。⁵⁾

1920年代に落花生と関連産物の海外輸出量は年々増大していたようであるが、詳細な数量は不明である。1930年代においても落花生の栽培と生産量は増大し、1930年代初期の生産状況は輸出の増加を判断材料として推測されるのであるが、日本の調査資料から1930年代の中国全国における落花生の各省別の生産状況を表1に示した。

表1 全国における落花生の各省別生産量⁶⁾ (単位・0.5t (500kg))

省別	1933年	1934年	1935年	1936年	平均値 ⁷⁾	比率 ⁸⁾
山東省	13,995	14,476	10,383	13,232	13,021.5	24.8%
河北省	10,787	9,269	7,139	8,143	8,834.5	16.8%
江蘇省	6,576	5,471	5,876	6,467	6,097.5	11.6%
四川省	5,483	5,943	5,320	4,946	5,423	10.3%
河南省	7,200	5,798	4,391	5,087	5,619	10.7%
廣東省	3,470	3,012	2,845	3,537	3,216	6.2%
安徽省	3,030	1,826	1,639	2,608	2,275.8	4.3%
湖北省	2,871	1,904	1,372	1,798	1,986.3	3.8%
福建省	1,581	1,482	1,308	1,295	1,416.5	2.7%
江西省	1,308	810	1,303	2,305	1,431.5	2.7%
湖南省	1,049	840	1,344	1,136	1,092.3	2.2%
貴州省	960	810	839	911	880	1.7%
浙江省	539	454	630	477	525	1%
陝西省	291	257	257	190	248.8	0.5%
山西省	264	257	146	195	182.5	0.3%
雲南省	208	243	181	194	206.5	0.4%
甘肅省	—	—	—	—	—	—
總計	59,613	52,889	44,973	52,622	52,524.3	100%

5) 伊藤斌編著『落花生の地位と支那落花生』東亜研究所、1942年9月、48頁。

6) 伊藤斌編著『落花生の地位と支那落花生』東亜研究所、1942年9月、50頁。

7) 表1の比率は、小数点の第2位を四捨五入した。

8) 表1の比率は、小数点の第2位を四捨五入した。

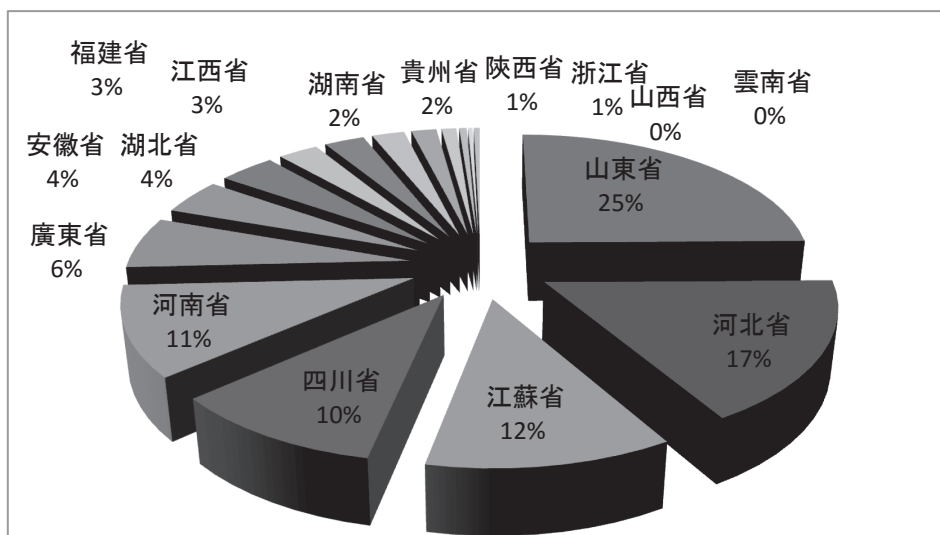


図1 1933-1936年落花生省別生産比率

表1と図1から、中国の省別落花生の生産量が最も多いのは山東省であったことがわかる。山東省は落花生の生産額の24.8%、ほぼ4分1近くを占めていた。それに次ぐのが河北省で16.8%を占め、江蘇省は11.6%を占めていた。この三省のみで落花生の生産量は全国の半数を越えている。中国の秦嶺と淮河を結ぶ地域以南の各省における落花生の生産量は多くなかった。中国における落花生の栽培と生産が盛んであった1930年代に落花生の生産量の詳しい状況はどうであったかについては当時の資料調査からも知られる。

1930年代初時の調査には、中国全土の各省別落花生の生産量が見られる。

1933年は59,613千市擔、1934年は52,889千市擔、1935年は44,973千市擔、1936年は52,622千市擔にして、逐年増減不定である。1933年より1935年までの減収は一般油料子及油の價格低落に因る栽培面積の減少による結果であるが、それも同期間に於ける印度の減少から見れば極めて少ない減少振りである。世界市場に於ける油料子及之等油の價格は1935年頃より次第に昇騰し、又氣象条件も極めて好適した為め耕作面積及生産量共に幾分恢復を示した。⁹⁾

1933年から1936年まで省別に見る落花生の生産量は逐年不安定であった。その原因の第一は、1930年代には生産技術も低く、氣象がよければ収穫も多かったが、降雨量が少ない時は収穫量が少なかった。1935年になると落花生油の価格は徐々に上昇し、降雨量も安定していたことで、

9) 伊藤斌編著『落花生の地位と支那落花生』東亜研究所、1942年9月、50頁。

栽培量と生産量も回復した。第二は、1933年から1935年までの落花生油の価格が低落に伴い、落花生の栽培量が減少した。

このように山東省における落花生の栽培と生産量は中国全国において第1位を占めていたが、山東省の各地の栽培地においても様々な品種が栽培され、品種の相違により生産量も大きな差があった。そこで山東省内における落花生の品種の状況について次に述べたい。

三、山東省産落花生の品種

山東省産落花生の品種には大粒種、中粒種、小粒種の三種¹⁰⁾がある。山東省産落花生の品種は大粒種が多く、大粒種の中にも様々な品種があり、詳しくは次の表2のとおりである。

表2 山東省産落花生の品種¹¹⁾

多粒型落花生品種					
番号	品種名称	番号	品種名称	番号	品種名称
1	栄城小粒紅	9	牟平紅皮	17	郟城小果子
2	文登小粒紅	10	招遠四粒紅	18	汶上爬蔓花生
3	海陽四粒紅	11	萊陽四粒紅	19	樂陵爬蔓花生
4	福山紅豆花生	12	黄県四粒紅	20	即墨小紅花生
5	蓬萊小粒紅皮	13	即墨小紅墩	21	新太四陰子
6	栖霞六猴花生	14	膠南小紅種	22	太安小花生
7	栖霞糠皮三粒紅	15	莒南小紅種	23	单県紅仁馱秧
8	牟平大紅袍	16	臨沂小麻果	24	樂陵半爬蔓
珍珠豆型花生品種					
1	威海市墩花生	10	金響一窩猴	18	花11
2	莒南小白仁	11	定陶小果子	19	萊西小白粒
3	平邑铁耙子	12	平原小花生	20	日照大果子
4	蓬萊白粒小花生	13	青島小洋花生	21	伏花生
5	膠南二蔓花生	14	樂陵一窩猴	22	花113
6	滕県小腰蜂	15	紫皮大粒	23	昌花1号
7	萊陽小花生	16	中選58	24	昌花2号
8	牙前大粒墩	17	系選23	25	東平立蔓花生
9	系選22				
龍生型花生品種					

10) 松崎雄二著『北支経済新聞開発論』、ダイヤモンド社版、1940年8月、430-431頁。

11) 山東省花生研究所主編『中国花生品種資源目録』山東省花生研究所、1978年8月出版から整理した。表2の番号は同書の記述順に付した。同書は北京の中国国家図書館の所蔵本に依拠した。

1	栖霞龍花生	7	沂北一窩猴	13	辛集花生
2	巨野小花生	8	滕縣小麻叶	14	栖霞立蔓小花生
3	滕縣騰子花生	9	巨野小花生	15	栖霞小花生
4	五蓮小果子	10	大鷹咀	16	乳山大粒蔓花生
5	栖霞立蔓	11	兔子屎	17	長清一丛生
6	巨野小花生	12	栖霞爬蔓小花生	18	A596
普通型落花生品種					
1	栄城老鴉鷄	81	定陶半蔓秧花生	161	反修1号
2	栄城大粒墩	82	萊西駅秧	162	反修2号
3	海陽立茎花生	83	萊西大粒墩	163	昌花3号
4	文登立蔓花生	84	艷子山大粒墩	164	昌花4号
5	文登軟皮花生	85	歴城墩生種	165	系選13号
6	文登上庄半蔓	86	曲阜直立蔓	166	中選7号
7	昆侖大粒墩	87	巨野小果子	167	大鋪秧
8	昆侖大粒墩	88	栖霞半糠皮	168	小鋪秧
9	威海墩花生	89	文登半蔓	169	三粒花生
10	海陽大粒墩	90	文登墩花生	170	小滑皮
11	海陽墩花生	91	昆侖矮蔓墩	171	洋花生
12	海陽大粒墩	92	威海大立墩	172	山東花生
13	牙前大粒墩	93	海陽半蔓	173	大果子
14	牟平一窩猴	94	牟平大粒墩	174	撐破囤
15	牟平軟皮花生	95	福山兩把抓	175	紅仁子
16	牟平兔子墩	96	福山大粒墩	176	山東小果子
17	牟平墩花生	97	萊陽墩花生	177	雜50
18	牟平小軟皮	98	蓬萊半蔓	178	山東小果子
19	福山大粒墩	99	蓬萊半爬蔓	179	雜50
20	福山半爬蔓	100	栖霞長蔓	180	黄県爬蔓
21	福山大粒墩	101	栖霞不落叶老抱鷄	181	平度爬蔓
22	福山軟皮	102	萊陽老抱鷄	182	即墨爬蔓
23	蓬萊早花生	103	萊陽宮家庄半蔓	183	青島爬蔓
24	蓬萊一窩猴	104	萊陽姜格庄半蔓	184	高密爬蔓
25	栖霞大半爬	105	萊陽穴坊半蔓	185	日照大果子
26	栖霞不落叶	106	萊西辛庄半蔓	186	五蓮大粒花生
27	栖霞糠皮花生	107	平度一窩猴	187	五蓮撐破囤
28	栖霞糠皮老抱鷄	108	青島蔓生大粒	188	沂水大粒蔓
29	栖霞不落叶老抱鷄	109	青島半蔓	189	沂水大粒蔓
30	栖霞老抱鷄	110	青島立蔓	190	沂南大花生
31	招遠半蔓	111	即墨爬蔓大仁	191	臨沂大麻果

32	萊陽半蔓	112	膠南一棚星	192	臨沂爬蔓花生
33	萊陽半蔓	113	膠南安咀子	193	汶上爬蔓
34	萊陽陽墩花生	114	膠南一棚星	194	汶上蔓生
35	萊陽陽墩花生	115	掖県一窩猴	195	費県爬蔓
36	萊陽半蔓	116	郟城睡果子	196	郟城睡果子
37	萊陽大粒蔓	117	郟城马蜂腰	197	蒼山爬蔓
38	萊陽直立	118	曲阜斗篷	198	蒼山大麻壳
39	萊陽立蔓	119	定陶立蔓	199	萊蕪爬蔓
40	黄県抱窩鷄	120	臨清凉帽翅	200	新太爬蔓
41	平度一窩猴	121	禹城立蔓	201	新太爬蔓
42	平度大粒墩	122	太安大粒蔓	202	太安小金果
43	即墨固壯花生	123	郛城一抓揪	203	鄆城拉秧
44	青島立蔓	124	冠県大粒秧	204	菏泽拖秧
45	乳山墩花生	125	萊西中小爬	205	单県半爬蔓
46	掖県一窩猴	126	萊西大粒秧	206	乳山大粒蔓
47	高密駅蔓花生	127	牧猪芥半蔓	207	海陽爬蔓
48	膠県一窩猴	128	群選5号	208	東平大爬蔓
49	日照二駅	129	萊蕪蔓	209	牙前大粒蔓
50	膠南半蔓	130	萊陽半蔓	210	牟平玉林蔓
51	莒南铺秧子	131	曲阜駅果子	211	福山中粒蔓
52	莒南半駅秧	132	夏津小二秧	212	福山軟皮蔓
53	臨沂老挂窩花生	133	栄城大粒蔓	213	蓬萊脱皮花生
54	郟城睡果子	134	栄城大爬蔓	214	栖霞大粒蔓
55	蒼山小二果	135	文登大粒蔓	215	栖霞半蔓花生
56	蒼山駅果子	136	文登蔓花生	216	萊陽半蔓
57	五蓮一窩猴	137	花85	217	萊西爬蔓
58	峰県兔子屎	138	花93	218	萊西大粒蔓
59	泗水駅秧	139	系選7号	219	萊西大粒蔓
60	新太駅秧	140	中選5号	220	招遠半蔓
61	太安大花生	141	中選15号	221	曲阜平果
62	太安半蔓花生	142	40	222	滕県洋花生
63	太安半蔓	143	系選3号	223	莒南大花生
64	寧陽大粒蔓	144	系選5号	224	蒼山大麻壳
65	寧陽一窩猴	145	系選21	225	滕県洋花生
66	寧陽大粒直蔓	146	萊西駅满	226	文登大粒紅
67	費県把子花生	147	墩花生	227	曲阜平果
68	費県駅秧	148	萊陽一叢生	228	寧陽大粒蔓
69	金響県駅秧子	149	萊西一撮秧	229	威海大粒蔓

70	郛県駅秧子花生	150	花55	230	峰県爬秧花生
71	菏泽駅秧花生	151	花54	231	滕県拖秧花生
72	巨野駅秧子花生	152	花27	232	滕県紫皮
73	惠民一窩猴	153	花98	233	齐河大花生
74	平原两把抓	154	花17	234	巨野拖秧
75	東平蔓秧洋花生	155	花63	235	蓬萊小爬蔓
76	臨清一窩猴	156	花80	236	牟平大粒墩
77	恩県二虎头	157	雜選二号	237	平度老墩
78	楽陵一窩猴	158	中選62	238	高密半老墩
79	齐東立茎花生	159	雜選四号	239	鄆城半拖秧
80	利津二猴子	160	混選一号	240	曲阜平果
241	曲阜斗棚星				
其他類型花生品種					
1	花71	5	花29小果	9	花37
2	花67	6	花31	10	花19
3	花33	7	菜農 4-4	11	花30
4	花29大果	8	花32	12	花28
13	花26				

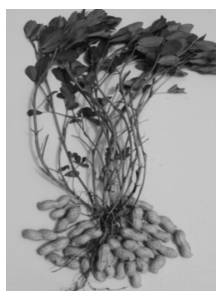


図2 普通型品種



図3 多粒型品種

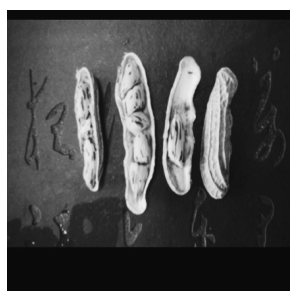


図4 龍生型品種



図5 珍珠豆型品種

表2に見られるように、山東省においては、図2の「普通型」落花生品種が多く栽培され、主要な地域が山東省西部の平原県、臨清県、金郷県、樂陵県、夏津県、平陰県、東平県などであり、中央部では沂源県、沂水県、蒙陰県、文登県、福山県、牟平県、乳山県、牙前県等、南部の費県、郟城県、莒南県、蒼山県等である。東部では、蓬萊県、招遠県、萊州県、萊西県、即墨県、五蓮県、膠南県、高密県、栖霞県等で生産されている。

図3の「多粒型」落花生品種は、花が咲く時期が異なる。一般的には連続的に花が咲くと多くの果莢3、4個が生じ、落花生仁が結実する。主要な地域は山東半島の東部に位置する栄城県、文登県、海陽県、栖霞県、牟平県、即墨県などがある。

図4の「龍生型」落花生品種は、皮が薄く、果莢が3、4個の結実が見られる。形は普通の落花生より大きい。山東省の西南部の栖霞県、巨野県、滕県、乳山県等が栽培地とされている。

図5の「珍珠豆型」落花生品種は、落花生皮が薄く、果莢は2個落花生仁を結実する。主要な地域は山東省の威海市、莒南県、牙前県、金郷県、青島市、樂陵県等、濰県、撫寧県などである。

1950年代までの山東省において多く栽培された落花生品種は、普通型落花生であり、全国のほぼ半数を占めている。これ以外の落花生の品種は全て龍生型落花生品種と多粒型落花生品種である。普通型落花生には代表的な品種は抚寧多粒、夏津小二秧、平原兩把抓、臨清一窩猴、金郷一窩猴、樂陵一窩猴などがある。これらの品種の特徴は日照りに強く、瘠せた土地でも栽培できる。¹²⁾

1960年代になると、生産技術の改善に伴い、単純な普通型落花生品種ではなく、其他の品種も栽培された。普通型落花生品種の栽培は減少し、珍珠豆型落花生品種や其他の品種の栽培が多くなった。代表な珍珠豆型落花生には、伏花生、冀油1号、白沙1016、花28、花11、開農8号、徐州68-4、花37、罗江鷄窩などがある。これら落花生品種の特徴は生育期間が短く、産量が多いことである。¹³⁾

山東省は海洋に瀕する地理的条件により、海外への輸出も頻繁に行われた。その海外への輸出物に落花生があった。それについて万書波編『山東花生六十年』に次のように見られる。

由于多年的計画經濟、1980年前、中国仅有山東省出口花生、1980-1985年期间、全国也主要由山東出口花生、其他省份較少、因此1985年前、山東花生的出口也就是全国花生的出口。¹⁴⁾

1980年以前の中国では僅かに山東省のみが落花生の海外輸出を行っていたとされている。1980

12) 万書波編著『山東花生六十年』中国農業科学技術出版社、2009年10月、231頁。同書は北京の中国国家図書館の所蔵本に依拠した。

13) 万書波編著『山東花生六十年』中国農業科学技術出版社、2009年10月、231頁。

14) 万書波編著『山東花生六十年』中国農業科学技術出版社、2009年10月、231頁。

年から1985年まで中国は主に山東省が落花生の海外輸出を行い、他の省は極めて少なかった。このため1985年までに山東省落花生の海外輸出量は中国全国落花生の海外輸出量の総額を占めている。

四、1934-1938年における中国産落花生の海外輸出状況

それでは1930年代の中国を含め山東省における落花生の海外輸出状況はどのようなであったかについて、以下に述べたい。

1、1934-1938年に中国産落花生の海外輸出

1930年代における中国産の落花生の輸出量は1932年の海関記録である『海関中外貿易統計年刊』の「土貨出口情形」に見られる。

花生及其製品 據上年（1928年）貿易報告所載、自民國十八年（1929年）世界經濟發生恐慌以來、凡百貿易、無不衰落、惟花生及其製品、非獨未趨下游、而且扶搖直上、上年出口數量、與十八年相較、計帶殼花生增至二倍、花生仁增至三倍、花生油增至二倍半以上、但本年出口情形、則顯見跌落、花生三種較諸十八年雖未減退、然比之十九年則遜一籌、若與上年相比則其貨值慘跌之鉅、計達關平銀一千七百萬兩、實堪驚人。¹⁵⁾

このように1929年の落花生の輸出は他の農産物より2倍以上に増加したが、1930年になると1920年代に比べ、1,700万両も減少した。1930年代における落花生の輸出量は相対的に安定した状態になっていた。1930年代の中国産落花生の海外輸出の状況を示すと次の表3と図6のようになる。

表3 1934-1938年における中国落花生の海外輸出量¹⁶⁾（貨量・公担 価値・国幣）

年	落花生（殻付）		落花生仁（無殻）		落花生餅		落花生油	
	貨量 公担	価値 国幣	貨量 公担	価値 国幣	貨量 公担	価値 国幣	貨量 公担	価値 国幣
1934	362,430	2,987,566	1,012,288	9,384,007	188,273	863,737	194,706	4,190,634
1935	359,506	3,833,741	1,252,829	15,768,009	118,484	730,440	385,959	10,659,932
1936	302,170	3,590,022	446,416	7,348,839	125,994	778,126	311,084	11,012,474
1937	230,205	3,130,581	463,591	9,003,161	174,818	1,229,172	414,765	17,332,308
1938	238,526	3,469,124	343,907	6,093,951	38,213	245,239	242,515	8,539,185

15) 『中國舊海關史料』第112冊、京華出版社、2010年10月、126頁。

16) 『中國舊海關史料』、京華出版社、2010年10月、1935年-1938年の4年間を整理した。

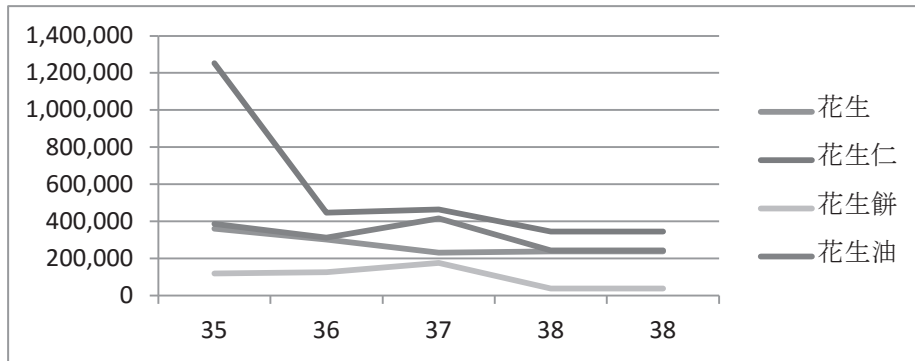


図6 1934-1938年における中国産落花生の海外輸出動向 (質量・公担)

1934-1938年における中国落花生の海外輸出品と輸出動向は表3と図6に示した。表3から、中国産落花生(殻付)の海外輸出は1935年から急激に減少し、1936年になると302,170公担になった。その後、中国産落花生(殻付)の海外輸出は年々減少する状態になった。中国産落花生(無殻)、落花生油、落花生餅の海外輸出品は1935年から1938年の4年間は平穏な傾向であり、大きな変動がなかった。

2、山東省青島における落花生の海外輸出

1930年代における中国全国落花生の生産量は次第に増加していたことは明らかである。これらの落花生の生産量と海外輸出状況を以下に述べたい。1920年代の山東省における外国貿易港は青島、芝罘(煙台)及び龍口(原黄縣)の三港¹⁷⁾であったが、落花生及び同加工品の輸出年額は10万担内外であり、青島からの輸出品は15分の1を占めていた。

そこで青島を中心とする落花生貿易について説明したい。中国全国落花生総輸出品額と青島落花生の輸出品額を次の表4に示す。

表4 中国全国落花生総輸出品額と青島落花生輸出品額の対照¹⁸⁾ (単位・担)

年	花生殻付			花生仁			花生油		
	全国	青島	比率	全国	青島	比率	全国	青島	比率
1921	409,763	106,211	25.9%	1,389,366	1,149,146	82.7%	461,661	446,380	96.7%
1922	439,005	136,650	31.1%	1,351,738	897,491	66.4%	383,521	384,218	90.8%

表4から、青島港からの落花生輸出品は全国的に見ても非常に重要な地位にあったことがわかる。青島の花生殻付の輸出品額は1921年と1922年の2年間の全国の輸出品額に対して平均比率が28.5%を占めほぼ1/4であったが、しかし花生仁の2年間の平均比率は74.6%を、花生油の2

17) 神戸高等商業学校編『海外旅行調査報告』神戸高等商業学校、1923年、188頁。

18) 神戸高等商業学校編『海外旅行調査報告』神戸高等商業学校、1923年、189頁。



図7 花生餅（円盤型に固める）



図8 落花生（無殻）



図9 落花生（殻付）

年間の平均比率は93.8%を占めていた。殻を剥いた花生仁と花生油の海外輸出量は、青島から海外への輸出が最も重要であったことは明らかである。

中国産落花生の大部分は青島港より落花生殻付、落花生殻無、花生油、花生餅の四品が輸出され、海外及び中国の南方へ搬出された。

青島における中国産落花生（殻付）、落花生（無殻）、落花生油、落花生餅の各国の輸出量については次の表5、表6、表7、表8になる。

表5 青島港から輸出の中国産落花生の量（殻付）（単位・公斤）¹⁹⁾

国	1934年	1935年	1936年	1937年	1938年	合計
日本	21,984	25,950	18,755	11,154	9,357	87,200
朝鮮	28		145	36	239	448
関東州	72	1,663	109	181		2,025
香港	873	51	153	—	—	1,077
イギリス	2,558	5,833	7,375	2,673		18,439
フランス	13,678	13,851	10,278	6,058	102	43,967
ドイツ	16,439	9,148	3,690	1,982	1,726	32,985
イタリア	12,270	22,467	1,501	335		36,573
ベルギー	355	407	507	1,955		3,224
オランダ	21,681	16,782	17,589	5,573	4,647	66,272
デンマーク	51	152	—	—	—	203
ポーランド	514	—	—	—	—	514
スペイン	—	—	311	—	—	311
ノルウェー	—	51	143	—	—	194

19) 松崎雄二郎『北支経済開発論』ダイヤモンド社、1940年、454-461頁。

其他歐洲	1,903	-	52	-	-	1,955
アメリカ	301	2,141	453	-	-	2,895
カナダ	1,496	953	2,631	1,407	317	6,804
其他南米	201	747	147			1,095
エジプト	5,842	4,879	1,125	1,576	1,016	14,438
モロッコ	151	-	71	-	-	222
アルゼリア	5,254	203	762	1,230		7,449
其他アジア	-	13	-	-	-	13
其他アフリカ	1,069	812	659			2,540
ルーマニア	-	-	-	50	-	50
チリ	-	-	-	331	-	331
ポーランド	-	204	102	-	-	306
ポルトガル	-	-	-	254	-	254
チュニス	-	-	-	610	-	610
新西蘭	-	-	50	40	-	90
濠洲	1,722	567	1,490	665	-	4,444
合計	108,458	107,835	68,098	36,150	17,431	336,928

表6 青島港から輸出の中国産落花生仁の量(無殻)(単位・公斤)²⁰⁾

国	1934年	1935年	1936年	1937年	1938年	合計
日本	85,060	43,922	36,932	18,131	34,778	218,823
台湾	1,565	-	-	-	-	1,565
朝鮮	820	439	138	89	-	1,486
関東州	778	-	-	-	-	778
パレスタイン	-	-	9,144		10,668	19,812
植民地	45	8,210	3,131	934	1,016	13,336
香港	13,967	11,937	11,758	6,523	1,628	45,813
イギリス	2,325	14,250	9,114	2,846	204	28,739
フランス	22,452	153,215	5,483	3,608	2,491	187,249
ドイツ	89,321	73,692	71,501	145,524	17,279	397,317
イタリア	9,192	73,638	-	343	-	83,173
ベルギー	610	814	1,325	867	-	3,616
オランダ	365,143	369,914	107,254	42,741	77,722	962,774
瑞典	569	153	426	-	-	1,148
ルーマニア	-	-	-	20	-	20
芬蘭	-	-	359	51	-	410
デンマーク	20,630	32,056	13,386	102	19,304	85,478
ポーランド	20	-	-	-	-	20
ノルウェー	8,128	-	-	-	-	8,128
其他歐洲	1,145	5,335	-	-	-	6,480
アメリカ	22,678	2,626	4,036	200	151	29,691

20) 松崎雄二郎『北支経済開発論』ダイヤモンド社、1940年、462-469頁。

フィリッピン	2,491	136	181	－	－	2,808
カナダ	26,720	13,110	6,606	48,886	11,575	106,897
蘭領印度	－	－	9	－	－	9
エジプト	23,051	33,847	12,659	－	13,972	83,529
南阿聯邦	－	－	－	10,160	－	10,160
其他アメリカ	－	1,437	－	－	－	1,437
モロッコ	13,442	4,827	609	1,168	－	20,046
アルゼリア	966	－	－	－	－	966
其他アジア	1,841	8,353	－	－	－	10,194
其他アフリカ	815	1,626	2,794	－	－	5,235
チリ	－	－	－	20	－	20
メキシコ	770	340	－	3,048	－	4,158
シリヤ	－	－	－	－	5,080	5,080
チュニス	－	－	－	5,182	－	5,182
ビルマ	－	51	－	－	－	－
新西蘭	76	－	60	40	10	186
濠洲	924	102	254	457	－	1,737
合計	715,544	859,030	297,159	291,733	195,778	2,353,494

表7 青島港から輸出の中国産落花生油の量（単位・公斤）²¹⁾

国	1934年	1935年	1936年	1937年	1938年	合計
日本	111	1,098	612	6	9,536	11,363
朝鮮	－	18	－	－	－	18
関東州	－	160	160	69	2,933	3,322
印度	－	－	7	－	－	7
香港	95,530	22,827	11,878	14,731	1,981	146,947
植民地	52	329	306	99	－	786
フィリッピン	1	－	－	－	－	1
シャム	18	94	－	300	－	372
イギリス	－	36,947	－	6,752	－	43,699
ドイツ	－	5,365	8,120	161,305	46,003	220,793
イタリア	1,536	122	－	－	－	1,658
オランダ	－	30,119	12,593	22,798	－	65,510
アメリカ	42,696	199,388	225,761	121,749	50,775	640,369
カナダ	18,486	38,873	32,870	45,641	5,212	141,082
メキシコ	－	18,187	－	－	－	18,187
フランス	－	－	－	2,990	－	2,990
合計	158,430	353,527	292,307	376,260	116,440	1,296,964

21) 松崎雄二郎『北支経済開発論』ダイヤモンド社、1940年、450-454頁。

表8 青島港から輸出の中国産落花生餅の量(単位・公斤)²²⁾

国	1934年	1935年	1936年	1937年	1938年	合計
日本	127,643	80,903	99,486	68,839	32,537	409,408
台湾	5,416	1,331	133	-	-	6,880
関東州	118	-	444	-	-	562
香港	3,390	-	-	8	-	3,398
植民地	5,686	355	508	-	-	6,549
其他	1,016	-	-	227	-	1,243
イギリス	363	-	-	356	-	719
ドイツ	1,016	-	1,016	12,192	-	14,224
ノルウェー	15,103	-	-	1,016	-	16,119
エジプト	-	-	-	104	-	104
アメリカ	10,160	34,133	15,976	71,403	5,533	137,205
カナダ	908	-	-	-	-	908
デンマーク	-	-	5,588	19,660	-	25,248
合計	130,864	116,722	123,151	-	38,070	622,567

1930年代の中国では図2のように普通型品種の落花生が栽培され、海外輸出も盛んであった。表5、表6、表7、表8から、青島港より各国へ輸出された中国産落花生の4品の中では殻付の落花生の日本への輸出が最も多くて毎年数100公斤であり、第1位であった。第2位がオランダであり、毎年数100公斤であった。

無殻の落花生、花生仁が最も多く輸出された国がオランダであり、毎年数万から数10万公斤であり、第1位であった。日本は中国落花生(殻付)輸入が第一位であったが、中国産落花生仁(無殻)の輸入はオランダとイタリアの後の第3位であり、毎年僅か1万、2万公斤であった。

中国落花生油の最も多く輸出された国はアメリカで、毎年数10万公斤であり、第1位であった。第2位がドイツ、第3位が香港であり、日本は第5位以下であった。毎年僅か数100公斤の輸出量であった。第1位のアメリカや第2位のドイツの輸出量を比べると、極めて大きな差があった。

中国落花生餅を最も多く輸入した国は日本であり、毎年数万もしくは数10万公斤の輸出量があり、第1位であった。第2位がアメリカであり、毎年数万公斤の輸出量であった。

とりわけ日本に大量に輸出された殻付の落花生の多くは食料品などに加工された。²³⁾最も多かった落花生餅は、多くは家畜の飼料などに使われたと考えられる。1922年の商務局貿易通報課編『山東ノ落花生及落花生油』に、

22) 松崎雄二郎『北支経済開発論』ダイヤモンド社、1940年、448-449頁。

23) 霍栄「明治時期日本に輸入された中国産落花生とその用途」、『第九届中日韓院生論壇』、北京外国語大学、2016年3月11-14日、644-655頁。

落花生粕ハ支那名ヲ花生餅ト稱ス。左記ニ示スカ如ク、蛋白質及炭水化物ニ富ムヲ以テ家畜ノ飼料トシテ賞用セラル。²⁴⁾

とあり、落花生粕は中国の落花生餅として蛋白質や炭水化物の多い飼料として家畜の餌に利用されることが多かった。さらに同書に、

落花生粕ハ従来日本内地ニ於テ肥料トシテ使用ノ経験浅カリシ爲メ歓迎スル處ナラス、價格モ大豆粕以下ナリシカ、漸次肥効ヲ認メラルルニ及ヒテ騰貴シ、更ニ最近煙草ノ栽培ニ對シ指定肥料トナリシ關係上、現時ハ百斤ニ付、豆粕ヨリモ金六〇—八〇錢方高價ヲ唱フルニ至リ。²⁵⁾

と見られるように、1920年代より日本でも花生餅こと落花生粕が注目され、とくに煙草の栽培のための指定肥料として注目されるようになったのである。このような経過から1930年代の日本における落花生粕の山東からの輸入が急増したものと考えられる。そのことは表8に示したように、青島港から海外に輸出された1934-1938年の5年間の落花生餅の総数量622,567公斤のうち日本一国のみで409,408公斤と、全体の約65.8%、ほぼ2/3を占めていたことから明らかであろう。このような大量の落花生餅のほとんどが日本で耕作のための肥料や家畜の飼料として利用されたことは明らかである。

五、おわりに

中国の農産物である落花生は、砂質の土地で栽培され、輪作作物として作られてきた。少なくとも20世紀の初めより最も多くの生産量を示したのが山東省であり、永きにわたり中国全土の第1位を占めていた。山東省における落花生の栽培面積は中国全土における落花生栽培の面積の4分1を占め、落花生の生産量と海外への輸出货量も盛んであった。青島港は山東省のみならず中国の中でも重要な港であり、青島港からは海外輸出落花生が大量に輸出されていた。

落花生は中国の農産物として歴史では短い、生産量が増大したことにより、経済作物として海外へ輸出されてきた。その海外へ輸出された落花生は主に山東省産落花生であり、とりわけ落花生には様々な品種があり、品種による生産量も大きな差があった。

山東省では図2の「普通型落花生品種」を多く栽培し、主要な地域が山東省西部であり、中央部でも盛んに栽培され、南部や東部の各県においても栽培が多々見られた。図3の「多粒型落花生品種」の特徴は3、4個の落花生仁を結実する果莢が多く、主要な地域は山東省の東部

24) 商務局貿易通報課編『山東ノ落花生及落花生油』商務局貿易通報課。1922年4月、103頁。

25) 商務局貿易通報課編『山東ノ落花生及落花生油』商務局貿易通報課。1922年4月、106頁。

の各県であった。図4の「龍生型落花生品種」は皮薄い果莢3、4個を結実する。形は普通の落花生より大きく、山東省の西南部主な栽培地である。図5の「珍珠豆型落花生品種」は落花生皮が薄く、果莢は2個ほど落花生仁を結実する。主要な地域は山東省の威海市などに見られる。

山東省ではこれら4種類の落花生が多く栽培されたが、1930年代の山東省において多く栽培された落花生品種は普通型落花生であり、ほぼ全国の半数を占めていた。落花生の特徴は日照りに強く、瘠せている土地にも栽培できた。海外輸出もよく行われる落花生品種は普通型で、その他に龍生型品種や多粒型品種も一部輸出されていた。

生産技術の改善に伴い、単純な普通型落花生品種ではなく、その他の品種も栽培された。普通型落花生品種の栽培が減少し、珍珠豆型落花生品種及その他の品種の栽培が多くなった。代表的な珍珠豆型落花生は伏花生、冀油1号、白沙1016、花28、花11、开農8号、徐州68-4、花37、罗江鷄窩などがある。これらの落花生品種の特徴は生長周期が短く、産量も多かった。

山東省では普通型品種の落花生が多く栽培され、海外へ輸出された。とくに青島港より各国へ輸出された。落花生の殻付、殻無、油、餅の四品の中では殻付が最も多く輸出されたのは日本で、毎年数百kgであり、第1位であった。第2位がオランダであり、毎年数100kgであった。日本へ輸出された落花生粕、花生餅はほとんどが耕作のための肥料や家畜の飼料として利用された。

無殻の落花生が最も多く輸出された国がオランダで、毎年数万から数10万kgであり、第1位であった。日本国は殻付落花生を多く輸入し、第1位であったが、無殻の落花生はオランダとイタリアに次いで第3位であった。落花生油を最も多く輸入した国はアメリカで、毎年数10万kgにのぼり第1位であった。第2位がドイツ、第3位が香港、日本は5位以降で毎年僅か数百kgであった。第1位のアメリカと第2位のドイツの輸出量と比べて極めて少なかった。

上述のように1930年代の中国において山東省産落花生の生産量は全国で最上位に位置し、しかも青島港という海外輸出港の拠点を有していたことから、青島港を通じて海外に大量に輸出されていたのである。